

## 土器コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 11 月 19 日（火） 午後 1 時 30 分～3 時 00 分

場 所：土器コミュニティセンター

参加者：13 名

担当者：市長、地域担当職員【坂入（下水道課）、小笠原（議会事務局）、富田（人権課）】、塩田（秘書課）

### 1. あいさつ

#### （司会）

本日は、令和 6 年度「みんなでまちづくり。市長と語る会」を約 1 時間にわたり、松永市長と意見交換を進めていきたい。今日は司会進行という大役を仰せつかった。よろしくお願い申し上げます。

それでは最初に、住みたくなるまち土器の副会長からご挨拶をさせていただきます。

#### （副会長）

今日は寒い中お集まりいただき、感謝申し上げます。会長はコミュニティ連合会の出張で大阪の茨木市に行っており、よろしくお伝えくださいとのことであった。

私方も現在 7 年度に向かってまちづくり 2025 を策定中である。御覧のとおり組織は高齢化しており、平均年齢が 72 歳。組織作りイコール人づくりだと思っている。今日はまちづくり 2025 の策定に向かって反映できるような会になればと思う。私たちの議論で有意義な会になるようにお願いする。

#### （市長）

土器コミュニティの方々におかれましては、丸亀市政運営において、ご理解とご協力、また多大なるご支援をいただいていること、心から御礼を申し上げます。今日は忌憚のない意見を何でも構わないので、生の声としてお聞かせ願えればと考えている。

議題に入る前に 1 つだけ。新しい浄化センターが、昭和町に 2 週間前に完成した。工費約 150 億円強で、ものすごく大きい事業である。古いセンターは今治造船の会社を挟んで北側にあり、今治造船のご協力を得て南側の土地を譲っていただき、そこへ新たに作った。全国的にも新しい土地に作ることは珍しいことである。

11 号線から北の下水道、約 2 万戸弱ぐらいの世帯が 100%新しい方へ切り換えができたところである。最新型の技術も全部取り入れた大変いいものであり、一番の特徴としては、浄化する際に出るメタンガスを利用してタンクに貯めて、発電をするというような機能があり、これも全国初と聞いている。

いろんな苦労もあり 10 年以上かかったが、皆様方のご理解があつて、やっと出来上がったということで、そのことだけお伝えして最初の挨拶とさせていただきます。

## 2. 意見交換

### (司会)

それでは今回のテーマ「まちづくりは人づくり」について、進められている状況について説明をお願いします。

### (市長)

丸亀市では将来を見据えて人づくりを推進し、市民が主体となった協働のまちづくりをさらに進めるということで、今年4月に協働推進部という新しい部を創設した。

理由としては、私は市長にさせていただいて4年目を迎えるにあたって、原点に戻るという意味も込めて、そして、市政の運営を進めるにあたって最も大切にしたいと考えていることが人づくりである。人が育ち、人がまちをつくる、いつの時代においても、人づくりがまちづくりの土台となると確信をしている。そして、市民主体となる持続可能なまちづくりの実現に向けて、取り組んでいきたいと考えている。

官民協働という言葉をよく聞くとと思うが、今は地方自治体の行政だけではまちの課題解決はなかなか難しい中で、いろんな団体、例えば今日も皆さん来られているが、このコミュニティの皆様方が丸亀の元気なまちづくりに、いろんな課題解決に取り組んでくれる、行政と一緒にやっていくことも協働である。

もちろんいろんな団体、NPO法人や企業がいろんな形で行政と一緒にやってまちづくりをしていくことも考えている。現実として、私もこういう時代が来たのかと思うくらいだが、例えば四国サポーターズクラブというものがある。

これは四国の企業100社以上が、人口減少にある四国を元気にするために、まちの賑わいづくりをやっているというものである。その中心となっている企業がJR四国、四国郵便、それと四国電力。その他、丸亀でいうと大倉工業、四国化成、今治造船など、たくさんの企業が参加している。

その取り組みの最初に丸亀市を選んでくれ、3年間丸亀市の賑わいづくりに協力をしようということで、内容はたくさんあるが、お金や人員をたくさん出してくれた。10月でそれが終わって、次は違うまちが選ばれるが、最初に丸亀市を選んできたことが本当にありがたかった。企業がここまでやってくれるのか、というようなことがたくさんあった。

1月1日には能登で大地震が起こった。いつ起こるかもしれない南海トラフ地震への備えとしても、自治会や自主防災組織、地域住民の助け合いというこのコミュニティが一番大切になってくる。丸亀の地域力の一層の高まりを目指すことは、安心して住みやすいまちへ繋がっていくものと考えているので、この人づくりを1つのキーワードとして取り組んでいる。

具体的な例として、今年4月以降の予算で、これまで自治会1件あたり300円の補助金を出していたものを倍の600円にした。市としての意気込みをわかっただけであればありがたいと思う。

またそれに併せて、自治会長手当それも1.5倍から2倍弱ぐらいに上げた。自治会長は大変いろんなところで苦勞されており、ポケットマネーも使うことがたくさんある。そんな中でこれも1つの人づくりの気持ちである。

先ほどの能登のことをお話しさせていただくと、丸亀市では1月5日から7月1日までの6ヶ月間、毎日職員が3人、延べ約140人が七尾市の被災地に入って行政のお手伝いをした。うどんの炊き出しも丸亀市観光協会と職員が行なった。非常に喜ばれたのはもちろんであるが、実際七尾市でのいろんな問題、課題について全て報告を上げてもらっている。丸亀もどういう風に取り組んでいったらいいか、南海大地震に対してどういう準備をしていったらいいかの勉強にもなっていると考えている。その他、今も土木技師の職員が1人、1年間という形で派遣をされており、下水の復旧復興を目指した仕事をしているところである。

能登での状況等を聞くと、これは過去に東日本大震災、阪神淡路大震災もそうであったように、結局は地域住民、近所の人たちの助け合いというのが一番命を救った、救命に繋がった、ということを経験しているところである。

今、各コミュニティへ市長と語る会に行っているが、次の担い手がなかなかいないという言葉はどこからも聞いているが、こういったコミュニティ活動、自治会活動をしてきている方々のおかげで、丸亀市もここまでのまちになったと考えている。

それともう1つ、人づくりで私がずっと思っていたことであるが、教育委員会とたくさん議論をして、今年の春から「人づくり石垣プロジェクト」を開始した。

コロナ禍で、小中学校はかなり休みがあった。その影響もあって、コロナ前と比べ不登校の子供たちが丸亀市では約2倍になっているのも現実である。これは全国的にも約2倍になっていると聞いている。また、授業時間がかなり減っているのも、自然と学力も落ちているものと推測できる。

まずは1日も早くコロナ前までに持っていくように、丸亀市独自の予算で小中学校の講師の先生、そして支援員、補助員、その他スクールソーシャルワーカー、そして先生方への相談業務を合わせて、全部で51名を新たに雇うことを決めた。実際に9月1日現在、51名プラスになったところである。

予算は約1億3000万円かかる。1年半前に教育長と職員の幹部とも話をした時に教育長は、予算をつけていただいても今は人がいないという現実であった。そこで教育長自らが、その任に当たれるような方1人1人をお願いをしてもらいたいと話をした。丸亀市の子供たちが今こういう状況であって、まずは改善していきたい、そのためにこういう取り組みをするので、と説明を行った。

もちろん県費でも講師などを雇っており、令和5年度は正規の先生以外74名いた。今年の9月1日現在で134名。結局60名を増であるが、市費で増やしたのは51名という形である。今年の8月20日、6年前に崩れたお城の石垣積み上げを開始した。石垣を1つずつ丁寧に積み重ねることになぞらえて人づくりを行っていく。

それと今年の丸亀市の予算の特徴は、子供たちの教育にはお金を惜しまないという形で、小・中学校やこども園、幼稚園保育園14校に何らかの工事予算をつけている。皆さんもご存じの通り、一番金額が大きいのは城東小学校。城東小学校は建て直す。城南小学校、城坤小学校は大改修をする。もちろん城東こども園も予算をつけており、その他は飯山北、飯山南小学校も少しでも早く建て替えなければいけないような校舎の状況との調査結果も出ている。その他、綾歌中学校の体育館は天井穴が開いたりしているので、今建築中である。

これは投資的経費という形になるが、建築費は学校を中心に200億円を超えた予算付けをしている

る。前年が 100 数十億円。今年の丸亀市全体の予算は 700 億円を超えた予算になっているが、どうかこれは頑張って進めていこうと思っている。

以上、丸亀市はこういった形で取り組んでいる。何か意見、ご質問あったら願する。

(司会)

丸亀市で取り組まれている状況についてよく分かった。説明いただいた中で、意見や質問があれば願する。

(コミュニティ 1)

教育関係や自治会についていろいろ工夫していただいております、ありがたいことだと思っている。まちづくり人づくりについては協働推進を新設して中心にやっているが、協働推進部は具体的にどういう組織なのか。例えば常駐する職員がいるのか、あるいは NPO 法人などと協力しているのか。具体的な組織と内容についてももう少しお話していただきたい。

(市長)

組織として協働推進部という名称にした。その下の課の業務は今までやっていたことと同じで、協働推進部に集めた。

まず地域づくり課は、このコミュニティや自治会を担当している。まなび文化課は、生涯学習関係を所管している。今、新市民会館を創っているのもまなび文化課。あとスポーツ推進課、図書館。今まであった課の名前を少し変えて、それをまとめて前面に押し出したまちづくりをしていこう、協力的に推し進めていきたいという気持ちである。

(コミュニティ 1)

協働推進部が上にあって、さきほど言った課が下にぶら下がっている。例えば、本当にまちづくりや人づくりを中心にやるのなら、私が考えるのは「まちづくり人づくり課」など、そういう具体的なアピールするような課ができれば、そこを中心にいろいろできる。まとめることはいいが、ただ上に協働推進部を持ってきただけ。これからは少子高齢化になっていろいろな問題が出てくるが、本当にまちづくり人づくりをするなら、はっきりその名前を課とした方がいいと思う。

(市長)

ありがとうございます。ただどうしても教育委員会とは別になる。教育委員会は教育長という特別職がいて、学校関係とかはやはりどうしても権限は教育委員会の方にある。予算をつけるのは市部局にあるが、内容などは教育委員会になる。

(コミュニティ 1)

人づくりは教育委員会の学校教育課などが本当に関係してくる。

(市長)

国は、今までは完全に行政と教育委員会を分けており、市長でもあまり口出しはできなかった時代がずっとあった。これが、全国的に行政も教育委員会に入ることになり、私も年間 4 回ほど教育委員と一緒に会合するという形をとっている。今までは行政側からの提案はあまりなかったが、今はそれができるようになっており、教育委員とも話し合いを行っている。

(司会)

確かに今おっしゃられるように、今まで分かれていた課を 1 つにまとめることはピラミッド構造で組織的にトップの方がいる。その中で横の繋がりが非常に大事で、上手く機能するかがこれから大事だと思う。どうしても今までは縦割りで、横の繋がりがコミュニケーションが取りにくいので、その体制が取れるのは好ましいことだと思う。

(市長)

その横の繋がりであるが、行政の言葉では重層的支援体制と言っている。全国的な施策で、今までは市役所内でたらい回しになったりしていたことが、最初に市民が相談した部署が全部繋げて行って重層的に対応するという体制を、正式には来年の 4 月から行う。今もそういった対応には取り組んでいるが、体制としてちょうど言われたような形を丸亀市としても取り始めたところである。

(司会)

民間でいうところのワンストップサービス。やはり我々市民からするとどこに行ったらいいのかわからず、あそこに行ったらこっちに行けとか言われる。

(市長)

市長でも同じである。

(司会)

まちづくり人づくりという中でも、“子供が中心”ということで今話を聞いたように思う。子どもも大切であるが、小中高の子ども達だけではなく、他の住民、高齢者の方々もいろいろ経験や知識を持っており、その方々のことも考えていただきたい。そういった取り組みはどうか？

(市長)

全国的に、予算が子育て支援にシフトしている。先ほど説明したように、本市も小中学校を中心に多大な予算を使っているが、想いとしては、幼児からシニアまで全ての方が生きがいを持って丸亀で生活してもらうことを目指している。生涯学習を本当に大切にしていきたいと思っている。

今の生涯学習センターは、耐震性がないため来年の 5 月で使用できなくなる。実は私が市長になった時、お城の前に小さな市民会館をつくる基本設計までが出来ていた。しかし、生涯学習機能を入れられなかったため、広くし、現在の場所に市民会館の場所を変えた。劇場は 1300 席、小さい方は 350 席で、少しゆったりめになるようにした。一番大事なところは、生涯学習の場をたくさんつくること。令和 8 年 9 月からオープンするが、その中身について自信を持っている。

一例あげると、また贅沢と言われるかもしれないが、新しい劇場に 3 台のピアノを買うのに 1 億 2000 万円の予算要望があった。

(司会)

それこそピンからキリまでである。

(市長)

私もその価格を聞いて驚いたが、スタインウェイのグランドピアノ 2 台で約 8000 万円。それと日本製のヤマハであったと思うが、これがその半額程度。これを担当課から「どうしても買いたい、皆さんに本物に触れてもらいたい、スタインウェイのピアノは絶対に音が違う」と言い切っていたので、

今度の劇場と生涯学習にはかなりお金は使っている。

また、物価高騰の波があり、市民会館を作るのに1ヶ月に5億ずつぐらい上がっていった、それをまた議会に説明する。今のところ建築費は140億円という金額は出ているが、開館時に140億円で収まらないような形。どんどん上がるが、作るのであれば本物志向でより良いものを作る。

児童館も入れるので、幼児ももちろん使ってもらいたいが、生涯学習はやはり何歳になっても。今でも丸亀は結構活発で、今の生涯学習センターで主な活動をされているのはシニアの方々なので、そのところを大事にしたい。また丸亀市に劇団ができるようなまちにしたいし、今の活動がもっと進むように取り組んでいきたいと思っている。

その他、私が市長になって以前あった80歳全員に1万円の敬老祝い金を復活した。88歳99歳にも祝い金を贈る。それとプラス敬老の日前後に市から、80歳以上の方全員に1700~1800円のお祝いの品をメッセージと一緒に贈っており、これは結構喜ばれている。

今までこのまちを支え、作ってくれた、丸亀という良いまちを残してくれている、その敬意と感謝の気持ちを表すという意味で、敬老祝い金と敬老の品を創設した。

#### (司会)

我々も、そういう活動にいろいろ支援していかなければいけないことは重々わかっており、コミュニティとして活動している状況ではあるが、冒頭副会長が話したように、コミュニティ自体の高齢化が喫緊の課題になっている。

次の世代へバトンタッチしていきながら、コミュニティ活動を続けているのが非常に理想的ではあるが、地域の情勢を考えるとやはり自治会加入率が低いことも、一つの原因に繋がると思う。コミュニティ活動の担い手がないことが、我々としては非常に困っている。それこそ人生の先輩方には、身体に鞭打って役員会やイベントに参加していただいているが、本当はもう少し楽をしていただき、次の世代にどんどん入ってきてもらいたい。

そういったことへの支援策、市として取り組みはあるか。市の方はスキルや知識、経験をお持ちの方がいるので、そういった方々がコミュニティ活動にどんどん参加していただければ、我々もいろいろなアイデアが出て活動の輪が広がっていくのではないかと考えている。そういった点はいかがか。

#### (市長)

現実として、若い方々がコミュニティ活動になかなか参加してくれないということは、17コミュニティの中で、ほとんどがその状況にあると思う。

私は35歳で丸亀市へ帰ってきて直ぐの時に、ちょうどコミュニティが立ち上がったばかりであった。子どもの時から知っていた近所のおじさんから“川西コミュニティの会長になるから手伝うように”と、言われたことを覚えている。それからPTAの役員をしたり、市長選に出るまではずっと役員をしたりしていた。

だんだんと若い人達がなかなか参加しなくなってきたというのを、私はこの約30年の間にひしひしと感じ取っている。民生委員やいろんな委員を市から作ってくれと言われて、そのお願いに回ったりもしたので状況はわかっている。

市としての支援策であるが、今日始めに言ったような、自治会への手当てを300円を600円にし

たから解消するものとは全く考えていない。少しでも活動費の足しになればという思いで増やしている。私が議員時代に研修に行った東京の下町の台東区あたりは、転入者は自動的に入るという形になっているそうである。都会の方から帰って入る確率が 90%ぐらいあると聞いた。地方でもまたどこかで変わる時が来ると思う。

それまではどうしたらいいかという、本当にご苦労今されている大先輩方が頑張ってくださいと正直思っている。若い人はやはり見ているので、必ずどこかで参加をしてきてくれる時がくると思う。実際一部では若い人で参加をしてる方もいる。言葉が不適切かもしれないが、難しく考えなくてもこれは続いていくものだと思っていて。画期的な良い案が出ず申し訳ない。

### (コミュニティ1)

コミュニティもそうであるが、自治会は高齢者ばかり。全体の年齢が毎年上がっていく。団塊の世代が一番多くて、だいたい 75 歳。それが 5 年後或いは 10 年後になったら恐ろしいことになる。

例えば高津の自治会も今は 70 軒あるが、5 年経ったら半分になるくらい。10 年経ったらほとんどいなくなる。若い人は現在 7 軒くらいで 1 割。子供も非常に少ない。我々団塊の時は、子供たちは 30 人 40 人いて子ども会は活発だった。我々は子ども会をしながら自治会に関連してきたが、今の若い人達は子ども会も成立しない。

今は働き方改革といっても仕事が非常に厳しいということで、昔と違ってゆとりがない。働いている人に、自治会活動やコミュニティ活動に来てくださいというのは非常に難しい。今は 65 歳になっても働いている。

昔のような環境であればコミュニティ活動に携わることができるが、今のコミュニティは一部しか団塊以下の人はいない。同じ人が役員をして、後継者がいないからだんだん年齢が上がる。5 年もしたらどのような状況になるか、みんな心配している。本当は 75 歳にもなったら引退したいが、後がないのでみんな頑張ってやっている。

日本自体が少子高齢化で人口減の時代。そういうことも踏まえて、いろんな計画を。特に我々が心配しているのは空き家の問題。だんだん空き家が増えていっている。そういうことも含めて考えていただけたら。おっしゃる通り解決策はないかもしれないが、どこのコミュニティ、自治会でも悩んでいる。なんとか若い人ができる環境ができたらいいい。

### (市長)

私の自治会も若いときは 50 数軒あったのが、今は 40 軒を切ったという状況で、空き家もどんどん増えて、子ども会もなくなった。やはりどこもそうになっている。

行政としては、やはり問題は人口減少の歯止めをどうするかにかかっているもので、国全体が子育て支援と子供のところばかりにお金をつぎ込んでいるが流れは変わっていない。丸亀市周辺、中讃地区の人口減少はすごい。坂出市は毎年 500 人ぐらい減って、三豊市も 500 人ぐらい減って、善通寺も減っている。宇多津町が微減、丸亀市も微減であるが、今から丸亀市も減ってくる。丸亀市も 8 万人ぐらいには減るといいう予測である。

その手だてとして、行政がお見合いをすることを去年やった。今年はやっていないが、お見合いをして 16 組もカップルができた。それで直ぐに人口減少はストップできないが、いろんな手だてをし

ながら、どこかで底を打つというのが必ず来るそうである。それまで今生きている人間が一生懸命楽しくやるしかないとは私は考えている。

丸亀のまちづくりは、『美しいものがたくさん見れるまち』、『美しい音楽がたくさん聞けるまち』、『美味しいものがたくさん食べれるまち』、そして『本物にたくさん触れることができるまち』をつくっていく。これがやはり一番人間が生きる上での生きがいに繋がると思う。もちろんその前には産業があって、仕事がなかったら駄目であるので、それは根本的に絶対必要なもの。その他、医療と教育は絶対ついてまわるものである。昨日も丸亀医師会の先生方と夜遅くまでいろいろなお話をした。

どうか皆様、体が動くうちは楽しく頑張っていたきたいと言うしか今はない。

### (司会)

丸亀市の方でも、いろいろな施策を打たれていることは理解した。マルタスに交流の場所を作ることの一つのきっかけになっており、その中でいろいろな NPO 法人が活動していることは良いことだと思う。それに伴って人が増えていく。

先ほどおっしゃられた、バスタブの底を早く抜け出すことがいち早くどこができるか。本物に触れるということは、まさしく先ほどのピアノの話。やはりそういったものがあることによって、興味がある人が集まってくることも一つ丸亀の特色としてやっていかななくてはならない。

### (コミュニティ 2)

私が土器町に住んで約 10 年経って、土器町の特徴や魅力を周りの住民の方々のおかげで学ばせてもらった。一番私が問題視しているのは、先ほど話されていた部分と重なるがやはり防災。少子高齢化で人口が減っていく中で、移住などのいろいろな対策を含めて人を確保しなければいけない。あと大幅に減らさないように対応していくことも大事である。

ご存じの通り今年の 1 月 1 日の能登半島地震、そしてまた宮崎県沖で発生した地震によって南海トラフ地震臨時情報が発表され、大規模な地震がたくさん今年は起こった。そういったことも含めて、私もそうであるが家族、また自治会をはじめとする地域の方々も、まさかの時が起こったらどうするか。高齢化も進んでいて、近所には助けてあげなければいけない足腰の悪い方がたくさんいて、心配の声がたくさん出ている。

冒頭の市長の説明を聞いた中で、能登半島地震支援に行かれたということで、大変素晴らしく敬意を表す。近隣の住民の助け合いの説明をされたが、本当にそうだと思う。先ほど言ったように高齢化が進み過ぎて、足腰が悪い方が助けの声も上げたくても、独居老人の方は声すらも出したくても出せない。それを知っているけれど、自分の家族や自分の身を守ることを優先せざるを得ないので、それを助けられることができるかという心配と不安。

助け合いの時代が本格的に来た、そういった時代が間違いなく来ると予測はしていたが、今年がこの最たる時期かなという実感を持っている。そういった中で、この能登半島の地震の支援にあたっての命を守るための近隣との助け合い、特に高齢者を助けるためのサポートはどういった知見が、支援されたスタッフの方々のお取り組みで得られたのかお聞きしたい。

### (市長)

まず生活面での一番の教訓は、上水道の水の確保。七尾市においても、半年経ってもなかなか上水

道が復旧していない。それと下水。七尾市では大きい管は一応全て直しており、下水に流しているが、地震で段差ができていますので、どうなっているのかと思う。

その教訓で、下水道管の耐震化を進めようとしているところである。それともう1つは上水道の確保。今丸亀の各浄水場は、水を取りに行ったら水が出るようなシステムは作っている。大きい地震があつたら弁がおりて止まって、逆流などで水が汚れないようにして、給水車で水が止まった処に持っていくという体制もとれるようになっている。それをさらに進めるという施策もしている。生活面ではこの2つが大きいと思っている。

それと大事なのは、家具転倒防止。これを全部の家の人にやっていただきたい。大地震が起こったとき、下敷きになって亡くなる人が多いので、家具転倒防止器具の購入費用の補助を、危機管理課を中心に進めている。

もう1つはもちろん家の耐震性。耐震補強に100万円まで丸亀市が補助することは以前からやっていた。しかし、実績は年間10件もない。耐震補強は平均170~180万円かかるそうなので、今までの100万円は継続して、プラス50万で150万円。今年目標は60件と決めたが、まだ全然いっていない。これは私の推測もあるが、大先輩たち75歳も超えてご夫婦で2人だけ、または1人だけとなつたら、耐震性はないが200万円近くのお金を出すのはもったいないと思う方がたくさんいるのでは。耐震調査には、13万5000円かかるが、この金額は丸亀市が全部みるとしているのので、まず調査やってもらって、高齢者の世帯にもやっていただきたい。

プラス50万円には条件をつけており、非課税世帯が対象。これをもっともっと啓発していきたい。家具転倒防止と耐震補強、ここには力を入れている。

## (コミュニティ2)

おっしゃられた内容はすごく大事なところであるが、ハード面。ソフト面も大事で、両輪がないといけない。有事先の予防は絶対に大事であるが、私が懸念しているのは有事後の話。有事後のパニック状態の時に、高齢者で身動きがとれない、助けてほしいという声を上げられない人達を、何か自治会コミュニティ単位で支えてあげられる他自治体の先進事例や、能登半島地震の教訓を踏まえている事案が出ていると思う。

有事後は一人でも多くの命を救う、人口減少しないように対策を打つ。土器でも人口減少が10年前に比べて顕著になった。空き家も増えている。そういった現状に、地震などの災害で人口をなくさないように、何かできることはあるか知恵を絞っていただきたい。

## (市長)

例えば人口減少対策で、今年の4月から始めたことを紹介すると、高校を卒業して県外に進学する時の奨学金に、卒業後丸亀に帰ってきて丸亀に住んでくれる方に、年間8万円ずつ奨学金の補填をするというものを作った。10年間やるので合計80万円。これは奨学金を借りて学校に行った20歳代で働く人たちにもものすごく喜ばれている。丸亀に帰ってきて、丸亀に住んで、仕事を選んで欲しいという思いで、今年の4月から始めている。

## (コミュニティ3)

丸亀市独自の奨学金を出す気はないのか。

(市長)

これは片岡給付金といって、ある。アルプス電気のオーナーが、株を丸亀市に寄与してくれた。その株の配当金が毎年数百万円ぐらいあって、そのお金を奨学金として出している。

(コミュニティ 3)

何人ぐらいいるのか。

(市長)

すみません、数までは頭に入っていない。

(コミュニティ 3)

こちらに帰ってくることを条件としているのは、非常にいいこと。香川県は特に県外に出ていったら帰ってこない。先ほどの耐震の家具防止のつっぱり棒について、申請して補助金はいただけるが、おそらく自分で取り付けられない人も結構多いと思う。高いところは年配の方は特に。

(司会)

おっしゃるように高齢の家庭では固定ができない。そういった時には市に申請を出すと、香川県防災士会の方が各家庭を回って事前調査して、こういう器具を取り付けするということで器具を買っていただいた後、取り付けの支援をさせていただいている。

(市長)

ありがとうございます。

(コミュニティ 1)

丸亀市はお城を中心とした非常に住みやすいまちで、特にお城の石垣は本当に素晴らしい。今は修理中でお金がたくさんいると思うが、例えば地震が来た時に他の石垣が崩れないかどうか。あるいは大雨で崩れないか、心配なところがある。崩れてから直すにはものすごく費用がいるので、その前にいろいろな調査をして、事前に修理をすることは検討しているか。

(市長)

もちろん指示している。北側の天守閣のある下、隙間がどんどん空いて下の 5 分の 1 ぐらいが出てきている。大きい地震が来たら天守閣も全て落ちる可能性が十分ある、それも分かっている。大きい地震が来ないことを祈る。

今の周り全部を地震が来ても崩れないようにするという手立ては、数百億円では済まないような費用がかかるので、今できることとして、まずは排水の道を順々に工事していつている。

全部大雨で崩れたため、昔の排水が詰まってしまっている。表面的な新たな排水は、今一部でき上がっており、順々に作っているところである。

ただその大地震への手立ては出来ていない。私は木を切れと言っている。根が張って石を押し場合も実際あるらしい。

(コミュニティ 1)

切った方が危ないのでは。根っこが枯れたら空洞になる。昔、自衛隊にお願いして、石垣に生えている木を切っていた。最近見てないが、それをまたお願いするのは予防にも多少なると思う。

(市長)

業者にこの間も大分切ってもらった。ちょうど今キャスルロードをしていて、市民からも木がよく生えていると言われるが、見返り坂の小さい木は切っている。ただ他にもたくさん生えている。自衛隊がまたやってくれたらいいので、お願いしてみる。

(司会)

予定していた時間を大分オーバーしてしまった。このあたりで終わろうと思うが、これだけは絶対に市長に言うておかないと今晚寝られないという方いれば。

(コミュニティ 2)

今開設中の城東こども園について。開設に向けた説明会にも参加していたが、やはり交通量が多い。地元の方の代理で言うが、少しでも幅員を広げたり、特に交差点をもう少し交通しやすいようにしたりしないと、結構ショートカットで使う人がいる。国道 11 号が渋滞する午後 5 時以降、ショートカットで聖池方向に移動、逆に聖池から国道 11 号に行くには城東小学校のマクドナルの道路から行くという人もいて、行き来して交通量がすごい。青ノ山保育所と合体するとなったら、保護者の方も含めたら交通量が多くなるので、総合的に道路の整備を。路面もガタガタしているので、少しでも改善できれば。

(コミュニティ 4)

追加して、土器の東西に走る道が 33 号と国道 11 号、浜街道以外の真ん中にない。多度津から丸亀への道があるが。計画にはあるが、いつ出来るか分からないと聞いている。早く出来たら南北線と交差してかなり効率よくなる。

(市長)

私的な意見であるが、私は 5 週連続で東京へ行って要望活動をしているが、これは丸亀だけの力では今言われたような道は出来ない。やはり国、県。今言ってくれているのは蓬莱橋。土器川を 1.3 倍に広げることをしているので、蓬莱橋を架け替える。そこから東へ、土器の十字路までは 4 車線にする。地元説明会が終わっており、これは国と県が全部やってくれることになっている。

そのような形で、積極的に要望活動には行っている。しかし今言った道はなかなか、他にもまだ要望している道がたくさんあるのですみません。でも頭に入れた。

### 3. 質問

(司会)

最後に質問票に対する説明をいただけたら。

(市長)

質問は緊急輸送道路がどの道なのかということであるが、緊急時の輸送するときの道路かどうかという指定を県も市もしている。路線名は“丸亀市地域防災計画”に明記しているが、ただそこがどこなのか地図はないということで、まずは地図に落とし込みをするように、指導したところである。

また、市道上に緊急輸送道路の旨を表示する標識等は設置していない。県内の国道県道においても全く同様である。県道を管理する香川県に聞いたところ、県道についても現在のところ標識等による表示はない。今後、国や他の都道府県の事例をしっかりと参考にしてまいるとの回答。周辺を注視していく。丸亀市も県と同じ。

(所長)

これは私が質問した。なぜかという、広報とかでいくら防災をしてと言っても、皆さんなかなか読んでくれない。以前関東に住んでいたが、道路にナマズの絵があって、すごくわかるような感じで表示がされている。買い物ついでに見て、ここは緊急輸送道路であると認識するとともに、地震に備えなければいけないという気持ちも出てくる。丸亀市はどこを見てもないのでお聞きした。

(市長)

今回のこの質問をもらって調べた。香川県は危機意識が低い。これは行政も一緒に、実際香川県は大災害がなかなかないので、来ないだろうみたいな気持ちがあったのかもしれないが、今の時代はそうではない。8月の台風10号、東かがわ市で線状降水帯ができて1時間50ミリが3時間降り、少し被害があった。これがもし土器川上流で降ったら、計算上で言えば水は溢れる可能性がある、河川国道事務所の所長から言われてドキッとしている。

この辺もまずは地図上に全部落とし込めと言ったところである。

(司会)

以上をもって、市長と語る会を終了する。本日は長時間にわたり、ぎっくばらんなところもお話いただいた。住みたくなるまち土器では、まちづくり計画2025を見直しているところなので、今日のご意見を取り組みながら進めさせていただきたいと思う。今日はどうもありがとうございました。